



朝れスピ一千集



私の好きな物は温泉、温かいご飯、自然です。それらが行く事がここ何年かの大きな楽しみとなっています。17号線の道をずっと北に向かうのですが、その道中は自然に囲まれて四季の様々な風景を見る事ができます。

新緑の田植え時や、その稻が黄金色に輝く稻刈りの時期、山々が鮮やかに色づく紅葉の時期といつの季節も綺麗な景色が広がっています。5月の丹波篠山は濃い竹のにおいて、朝と晩の気温差が大きい3月は丹波霧の雲海眺める事ができました。

途中、お店に寄つたり岩茶房で中国茶を楽しんだら早めに宿へ向かうのですが、ここはお気に入りの宿で、木の温もりに包まれながら白米に丁寧に作られた焼きナスのお味噌汁や産地のものをつかたご飯を食べてゆつたり温泉に浸かつたら身も心もさっぱり癒されます。

一人旅?...驚かれる事も多いですが、皆さんも是非一度ふらっと気ままな旅をされてみてはいかがでしょうか。

(介護員 橋爪涼)



はな華

71



Y様は私の顔を見ると、「長村はん。次いつが洗濯ですか?」とよく言われました。私が「多分次は〇曜日ですよ」とお伝えすると、「すまんけど寄ってくれるか?」と仰られるので、私は洗濯業務の時にY様のお部屋に寄るようになりました。初めての頃は、手洗いの物を沢山お預かりするので、大変だなあという気持ちがありましたが、ある日、Y様は「長村はんに頼んだら間違わないや!」と仰ってくださいました。洗濯は、誰が洗つても同じだと思ったので、Y様は私を信頼し預けてくださっているのだよY様のお気持ちを知り、嬉しくなりました。

ある日、Y様から「長村はん。あんさんには、よ一世話になつたな。無理言うて、すまなんだなー。ほんまにありがとうやで。」と両手を合わせて私に何度もお礼を言つてくれました。急にお礼なんてと不思議に思つながら、私は次の日から連休に入りました。

そして連休が明け、出勤すると、Y様が亡くなられたことを知りました。数日前までとてもお元気だったのでとてもショックを受けました。あの日、Y様が何度もお礼を伝えて下さったのは、何か感じられたのかなと思いました。私は不思議な思いでY様への感謝の想いを熱く感じました。Y様のありがとうのメッセージがずっと胸の奥にあり、今でも私の原動力になっています。

ありがとうございました。Y様のありがとうの言葉を素直に伝えること、そして受け取ることで不思議な効果があるそうですね。ありがとうの言葉は、魔法の言葉だと何かで読んだことがあります。私も日頃から家族や友人、まわりの人間に「ありがとう」の言葉を素直に伝えるようにしたいと思います。

この話には後日談がありますので、お聞きになりたい方は長村まで。

(介護員 長村あけみ)



編集後記

新年あけましておめでとうございます。「J利用者、J家族、地域の皆さまからの温かいご支援」と理解、「J協力を賜り、無事に新春を迎えることができましたことを心より御礼申し上げます。今回はクリスマス会やお屠蘇祝いの素敵な瞬間をお届けすることも、職員の想いが沢山詰まつた内容となつております。本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。

(生活相談員 田渕桃香)

匠の技 清華苑伝統の手作り門松

施設長 岩西太一

新年明けましておめでとうございます。約3年ぶりの行動制限のないお正月でしたが如何お過ごしになられたでしょうか。

昨年は格別の御厚情を賜り、厚く御礼を申し上げます。
さて今回は、当法人4拠点（特養、ケアハウス、養護センター、大久保苑）に毎年設置をしている門松のお話です。

清華苑の門松は、素材の調達から全て職員の手作りであります。作成の陣頭指揮を執りますのが80歳と78歳のスタッフです。今年は私に加え養護センターから事務職員とケアンセジャーが同行しましたが、手伝っているのか、邪魔をしているのか分からぬ状態でした。

匠の技を持つ熟練スタッフは、難なく竹を切つては3本を束ね、肩に担いで急斜面を登り、竹を斜めに切り落とし鉗（かんな）で断面を仕上げていく、土台となる桶の装飾用の竹を長さに合わせて、見たこともない機械で手際よく裁断されました。

ここまでくれば私たちも手伝えることは無く、まさに職人技といった様相で、ただただ傍で邪魔をしないように静観するしかできませんでした。そして、あれよあれよと立派な門松が出来上がりました。

門松は新しい年を迎えるために、玄関先を清め、悪い鬼や邪気などが家のの中に入つてこない様に、その年の神様（歳神）をお招きす

るための目印であり、お降りになった神様が宿として使われる場所（依代・よりしろ）となるそうです。

「松は千歳を娶り、竹は万代を娶る」という諺があり、松と竹が門松に使われ、神様の安息所が永遠に続くことを願っての組み合わせを考えられています。

たくさんの福をお招きできるように職員が丹精込めて門松をつくりましたので、「来苑の際など是非ご覧ください。
最後になりましたが、本年も職員一同、「入居者」ご家族の皆さま、地域の皆さまに満足いただけるサービスを心がける所存ですので、何とぞ昨年同様のご愛顧を賜わりますよう、お願い申し上げます。



ビンチをチャンスに変えよう！

統括部長 田村智之

セルフ形式の讃岐うどん有名な「丸亀製麺」はどう存知でしょうか。この会社の正式名称は「株式会社トリドーホールディングス」、うどん屋さんなのに「トリ」？と思つ方も多いかもしません。

実は「丸亀製麺」、加古川市で「トリドール三番館」という焼き鳥屋からスタートしました。開店当初は客足が伸びず、試行錯誤を繰り返す中で思いついたのが、「フルオーブンキッchen」でした。このスタイルによって、お客様とのコミュニケーションが深まって店に活気が生まれて、お客様も増えていったそうです。

粟田社長はインタビューで「同じ焼き鳥を扱っていても、お客様の目の前で焼き、見て提供するのとしないのとでは売れ行きに大きな違いが出ることを身をもつて知った」と振り返っておられます。

そして、このスタイルは同じく加古川市で1号店を開いた「丸亀製麺」にも受け継がれただけですが、なぜ焼き鳥屋からうどん屋へ？その理由は、平成12年頃から飲食業界を襲った鳥インフルエンザ問題でした。これにより焼き鳥屋からうどん屋へシフトします。結果として、まさにビンチをチャンスに変えたのですが、この「フルオーブンキッchen」の業態は、欠点もありました。

製麺で温かい
うどんはいかが
でしょうか。



ひとつ6体目 繼続は力なり

看護主任 大島さおり

皆様あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。
さて今年はうざぎ年ですが、毎年2階のロアにその年の干支を粘土で作り、飾っています。

そのため社内外からは、「セントラルキッチンを作ればもっと利益が出るのではないか」「こんなやり方ではいつまでたっても大きくならない」という声も上がったそうですね。その度に粟田社長は「なぜお客様が足を運んで来てくれるのか？」と自問自答しながら、「製造工程を体験することにお客様は少なからず価値を感じている。そこを『効率化したい』という自分たちの都合で勝手に変えてはいけない」と言って考えがぶれることはなつたようです。

ビンチを柔軟な発想でチャンスに変え、一方で信念は曲げずにこだわり続けたことで今成功があるのではないでしょうか。変えるべきことは変え、変えてはいけないことは変えられない。そのバランス感覚は業界を超えて学ぶべき点が大きいにあると感じました。

久しづぶりに「丸亀製麺」で温かい
うどんはいかが
でしょうか。
いました。
中学生を卒業するとき、先生から「継続は力なり」という言葉を頂きました。言葉の意味を知

り、何かひとつでもこつこつやり続けたら少しでも自分自身のためになっていたらいいなと思い、新しいことをするたびに思い出します。

毎年の干支の置物作りも、やり続けたら2年には1つくらいは立派な物が出来上がるかもしれません。今年のうざぎさんの出来映えはいかがでしょうか？皆様の感想をお待ちしております。

毎年の干支の置物作りも、やり続けたら2年には1つくらいは立派な物が出来上がるかもしれません。今年のうざぎさんの出来映えはいかがでしょうか？皆様の感想をお待ちしております。

クスのお化けのようで、やり直してできた結果は小さな小さな猫のやうな子トラでした。
ご利用者にお正月気分を味わってもらおうと企画したのが始まりですが、手作りの物を継続して制作することは、とても難しいと思いました。

中学を卒業するとき、先生から「継続は力なり」という言葉を頂きました。言葉の意味を知



困難を乗り越えて ょ笑顔の為に

介護員 明松葵

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、運動会や秋祭り等の行事が中止になってしまった。ご利用者・職員共にとても楽しみにしていましたが、利用者の方たちも残念がありました。まだまだ地域では、新型コロナウイルス感染拡大が続いている状況ではありますが、ワクチン接種が進み、季節の行事が少しづつではあります。職員が秋祭りで披露する予定であったダンスは日を改めてご利用者や他の職員に披露する場を設けて頂きました。ご利用者・職員共に皆様が楽しんで頂けるよう、様々な行事をたくさん計画していきたいと思います。

また、「こんな行事をしてほしい」「もっとこうした方がいい」というご意見がありますから是非教えてください。次年度も感染対策を徹底しながら、「ご利用者の方々が楽しんで頂けるよう、様々な行事をたくさん計画していきたいと思います。どうぞ宜しくお願ひします。

職員からの気持ちを受け取って頂けたら嬉しいです。「ご家族の皆様、ご利用者の皆様各部署の職員のおかげでこの一年たくさん行事を実施することが出来、とても感謝しています。



笑顔を届ける介護士

介護員 塩岡由麻

私は入職した頃から介護士として大切にしている事があります。それは、ご利用者に寂しさや辛さを出来るだけ感じさせず穏やかな日々を過ごして頂く事です。

当たり前では?と思うかもしませんが、4年以上経験を積んでも難しい感じします。それでも、せわしない業務の中で、「利用者一人一人に、落ち着いた空間や丁寧な対応を提供しよう」と心掛けています。

最近、ご利用者K様との関わりで心がぽかぽかした出来事があります。K様は、全身の痛みを訴えられ、終日居室のベッドにて過ごされています。食事の声掛けをして、「食欲が無いから『飯いらないです。』と拒否される事も多々ありました。

ある日、入苑当初のK様とよく他愛もない話をしていました事をふと思い出しました。若い頃の写真を見せてくださったり、「出身やお仕事の話をされるなど、お話し好きな印象でした。単純ですが、毎日の関わりを増やしてみよう」と思い、こまめに訪室し声を掛けるようにしました。

「K様、こんにちは。今日もよろしくお願ひします。」と笑顔で挨拶をするだけで、「なんでそんなに楽しそうなの?いい事あったんですね?」「来てくれたんやねえ。」とK様の笑顔が返ってきました。

そんな日々を繰り返すうちに、「ありがとうございます。もっと早くに貴女に会えて良かったねえ。迎えに来てくれたからお茶飲むだけ行ってみましょうか。」と笑顔で言われ、ベッドから起きられました。K様の笑顔。そして、私と出会えて良かったと、言葉で伝えられ、ぽかぽかと幸せを感じました。

また、見学していた学生さんが「凄い。名前を呼んだだけ笑ってくださるんですね。」と驚いてくれたのも嬉しかったです。その他の「ご利用者にとって、安心できる穏やかな光の利用者からも「貴女の笑顔からパワーを頂いています。」と、当直?そしたら安心だね。」と言われることがあります。

ご利用者にとって、安心できる穏やかな光の利用者からも「貴女の笑顔からパワーを頂いています。」と、当直?そしたら安心だね。」と言われることがあります。

ご利用者にとって、安心できる穏やかな光の利用者からも「貴女の笑顔からパワーを頂いています。」と、当直?そしたら安心だね。」と言われることがあります。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に映られているご利用者は別の方で関係はありません。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に映られているご利用者は別の方で関係はありません。

もう後悔はしない

介護員 川口琴音

A様は、男性で麻痺がありましたが、ご自身で身の回りのことをしておられました。

初めては寡黙な方だという印象がありました

が、少しすつお話ができるようになり嬉しく思っていました。

その後、ご状態が急変し病院へ入院することになりました。そして清華苑へ帰つてくることとなりました。そして清華苑へ帰つてくることなくそのままお亡くなりになられました。

その方のことをほんの少ししか知ることができていないのにお別れになり「もっとああしておけば」と後悔ばかりでした。

月日が経ち、新たに入所されたB様の担当となりました。B様は、女性で認知症があり、耳が遠い方でしたが、いつも笑顔を見せて下さいました。いつも後悔ないようにしたいとできるだけ多くの関わりを持つよう心掛けました。

B様とたくさんお話をした中で印象に残っているのは、「どうええ笑顔でおつたらええのよ。誰も嫌な思いはしないでしょ」と仰っていた

ことです。その後、B様は入院することになりました。入院前日少しお話することができますが、この時もB様は笑顔でした。まさかこれが最後の会話になるとはこの時は思っていませんでした。

数日後、B様の訃報を聞いても実感がなかなかつかない不思議と涙は出ませんでした。入院中の様子を見に行った看護主任から「意識が朦朧としている中だったけど、私の姿を見たらB様はニコッと笑つて下さったよ。きっと制服を見て清華苑の人だつてわかつたんだと思う。」という話を聞きました。

B様は、身体が辛い状態でも笑顔でいたんだ、ちゃんと私たちのこと覚えていたんだと思うと、お亡くなりになった実感が一気に沸き涙が止まらなくなりました。後悔がないと言つたら嘘になりますが、自分が出来ることは全う出来たのではないかと思います。

これからも関わる全てのご利用者へ今回の学びを活かしていくたいと思います。

STAFF VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの生の声をご紹介します。

社会福祉法人 三幸福社会
清華苑
miyukifukushikai seikaen
SEIKAEN